

三島学園女大家政

貝島百合子

○伊藤 よし

柴崎 礼子

杉沢 武子

1. 糊染における防染糊の調整、使用法はその染色技法によって種々異なるものである。本研究は、ゆかり染を主体とした糊の調整、運筆をとりあげ、染色における糊の効果をこころみたものである。前報までに、技法の概要と、この染の美的要因の一つである糊の効果(1)を発表したが、引続き(2)を発表する。

2. 生地は、処理を行ない、豆汁を引いて十分に乾燥した白木綿を使用し、糊料は、白玉粉及び小麦粉である。

糊の調整法としては、①白玉粉のみの煮糊。②上記、煮糊に対する小麦粉の割合が、1:1, 1:3, 3:1の配合糊。③白玉粉に小麦粉を1:1, 1:1.5, 1:2の割合に配合した煮糊。④上記、煮糊に対する小麦粉の割合が、1:1, 1:3, 3:1の配合糊とする。運筆は厚、中程度、薄の3方法とし、自然乾燥による亀裂の変化と糊の効果を検討した。

3. ①及び②は、粘着力が強く、浸透性に富み、乾燥に伴う亀裂が少ない。③及び④は、先に発表した小麦粉の煮糊が、糊の厚薄、運筆にもよるが一般に繊細な亀裂を生ずることよりみて、白玉粉を加えた場合には、粘着力、浸透性も緩和され、運筆も容易となり、乾燥に伴う亀裂も面白味のあるものとなる。又、彩色における糊味と、重ね色の表現にも効果がみられる。